



カレブ通信

2011 年 9 月 20 日
第 8 号

1 各地カレブの会の報告と予定

内容

1 カレブの会の報告と予定

2 メンバーからの報告

仙台カレブの会

3 カレブ ストーリー 1

伊藤紘一さん

4 カレブ ストーリー 2

伊藤博康さん

● 東京カレブの会

9 月の東京カレブの会

9 月 30 日(金) 御茶ノ水 OCC 402 号室 午後 6 時から 8 時半

参加者のみなさまからこの夏の証

西山久生さんのライフ・ストーリーとプロジェクト報告

10 月 28 日(金) OCC 402 号室 午後 6 時から 8 時半

テーマ「人に寄り添う」について伊藤博康さんのお話しと分かち合い

● 宇都宮カレブの会

10 月宇都宮カレブの会の予定

10 月 1 日(土) 宇都宮シャローム 午後 3:00 から 5:30

「永遠のいのちについて(3)」の話し合い

● 宇大カレブの会

10 月 29 日(土) 原田浩司さん担当

テーマ「福音のためのインサイダー」午前 10 時から午後 1 時まで

● 仙台カレブの会 10 月中旬の予定

2 メンバーからの報告と祈り

1) 仙台カレブの会のスタート

9 月 17 日、小川夫妻、根田夫妻を中心に仙台カレブがスタートしました。月一回集まり、互いの信仰を助け合いつつ、仙台らしいカレブの会を育ててゆこうと祈り始めました。仙台の地で、インサイダー（隣人のよき友）として用いられますように。

根田ご夫妻

小川ご夫妻



わたしはぶどうの木で、
あなたがたは枝です。
人がわたしにとどまり、
わたしもその人の中にとど
まっているなら、
そういう人は
多くの実を結びます。
わたしを離れては、あなた
がたは何もすることが
できないからです。
ヨハネ 15:5

3 カレブ ストーリー（1）

定年後の“ひとり起業”

鎌倉雪ノ下教会会員：伊藤紘一



2003 年 60 歳定年と同時に、ベンチャー起業家支援コンサルタント会社『勇元』を立ち上げました。2 年間の経済産業省外郭団体出向を含む、大企業 2 社での多種多様な新規事業創出の経験と人脈を活かして、ベンチャー起業家にアドバイスする仕事であります。

大企業や政府からの調査・コンサル依頼が少々あるお蔭で何とか倒産しないで済んでいます、儲かる仕事ではありません。なぜなら、立ち上げ初期のベンチャーはコンサル料を支払える筈はなく、いずれ近いうちに（？）儲かったら支払いますよ、という成功報酬になってしまうからです。したがって、私としては長生きしなければ元が取れません。（笑）

わが社の社是は、『地の塩』--- 相手先の味を引き立てる

『世の光』--- 創造主の心を反映させる

です。これに忠実であればあるほど、すぐには私への直接的な収入にはなりません。しかし、コンサル依頼者の喜ぶ顔を見ると、将来の夢をシェアできることは幸いです。

もちろん、失敗は付きものです。ある起業家を信用して 3 億円の銀行融資のお手伝いをしたところ、途中で悪事がバレて、銀行にも大変な迷惑をかけてしまいました。困った時のみ助けを求め、順調になった後は知らん顔という方も実際には多いのです。しかし、できる限り『隣人』のために祈りを込めて行動していますと、必ず神さまが働かれて万事を益としてくださいます。不思議ですが実感！です。

さて、2011 年 9 月 4 日付け日本経済新聞に藤原聖子著「世界の教科書でよむ<宗教>」という本が紹介されていました。著者がこの記事の最後でこう述べています。

『日本人は宗教について勉強熱心だが、信仰する人間をリアルに考える機会が少ない』と。信仰を軸として生きる生身の人間のサンプルが少ないということでしょう。これを読んで私は『はっ！』としました。

果たして、わたしの生き方は周囲の人に対して信仰者としての証しとなっているのか？生き方で示すほかに伝道はないのでしょうか！

ここを引き締めて、神さまがお許しになる限り、この“ひとり企業”を継続いたします。因みに、社名『勇元』は勇気と元気を届ける有限(勇元の語呂合わせ)会社ということで、英語では YOU GAIN（あなたが儲かる、ユウゲンと発音）としております。

伊藤紘一さんへの

お問い合わせ：

mambo_ito@yahoo.co.jp

伊藤紘一さんの職歴

- > 1968～1995 年 日本軽金属にて主として新規事業創出
- > 1995～1997 年 経済産業省管轄（財）金属系材料開発センター出向
- > 国家プロジェクト・金属リサイクルに参画
- > 1997～2003 年 阪和興業にて環境新規事業創出
- > 2003 年 （有）勇元 設立、 現在に至る。

4 カレブ ストーリー (2)

定年ではなく、神様による退職とその後

伊藤博康

主の御名をほめ讃えます。この証の場をお与え下さり感謝申し上げます。

1994年10月31日、新工場完成で、引越し作業中、事故により、外傷性記憶喪失症、外傷性癲癇症、59歳にして廃人、神様による、強制退職でした。

兎に角、記憶力の回復が必要な私の為に多くの方が熱心に祈って下さり、そのお祈りの中で、普通に人と会話が出来ようになったのです。

私は、以前から、町田聖書キリスト教会で牧師の許可を得て、心の病んだ方のための集会をやっていたのですが怪我のために、自然消滅でした。神様は、私に習う者なら、私が弱者に寄り添ったように、その様な人に寄り添いなさい。と言うのですよ。これが、この働きを始める事の経緯なのです。

私は示されるままに、心を病んでいる娘さんを訪問しました。そして、それが、その娘さんのお母様と共に、長い試行錯誤と暗中模索が続く始まりでした。

クリスチャンは人が霊的存在で、心の問題も霊的なものなのは、ご存知です。しかし、霊的なことは危険だから、触れるな、さわるな、が基本的態度として教えられているのです。神は霊であるから、霊とまことを以って礼拝しなさいとの関係が語られたことは殆どありません。しかし、神様は少しずつ必要なことを解き明かして下さいました。今、相模原市、青葉キリスト教会の漆間牧師のご好意を得て、毎月2週4週目の土曜日、ある、訪問看護師の方、前述のお母様やその他の方のご協力を得て、心の病んでいる方のための集会を持っております。神様の御業の現われを期待しつつ、以下に事例をあげます。

事例 1、「町田市」家庭の宗教。立正佼成会、当時お母様のみクリスチャン
ご両親 子ども 5人 祖母 合計 8人家族、つれて来られたのは、下から 2 番目の男の子、家族間、兄弟同士は会話があるが、他人とは殆ど会話が出来ない状態でした。医者診断は統合失調症、幻聴がひどく、人とは関われない状況で、祈るとイエス・キリストを救い主として受け入れました。彼との話から、父親を受け入れ赦すことを勧め、お祈りを致しました。彼の霊的成長は周囲も驚くほどで、自分で仕事を見つけ、就職し、働き始めました。

事例 2、「八王子市」主婦、統合失調症、離婚、子ども 1 人、子供の事でお世話になった牧師の導きでイエス・キリストを信じる信仰告白はしておりました。子どもは男の子で、友達に引きずられて非行に走り、警察に捕まり、前述の牧師の導きでイエス・キリストを信じ告白をし、牧師は彼を引き取り、現在、その牧師の教会で讃美の奉仕その他の伝道活動をしています。

お母さんは、幻聴がひどく、何を伝えても、幻聴に邪魔をされて、その牧師も、ちょっと、お手上げの状態でした。このお母さんとの話から、母親と父親を受け入れ赦すことを勧め、お祈りを致しました。

多少時間はかかりましたが、神様によって幻聴は殆どなくなり、周囲の人との関係も良い方向に向かっております。

全ての御業はイエス様のものです。全ての栄光を主イエス様にお返し致します。



母親と父親を受け入れ赦すことを勧め、お祈りを致しました。多少時間はかかりましたが、神様によって幻聴は殆どなくなり、周囲の人との関係も良い方向に向かっております。

全ての御業はイエス様のものです。全ての栄光を主イエス様にお返し致します。

伊藤博康さんへの
お問い合わせ：

log3-hito@kmd.biglobe.ne.jp

